公式SNS
西脇市Facebookでも情報発信中！
紙面に載せきれないまちの話題がどんどん届きます。

伝統文化に触れる　アピカで体験会

伝統文化の体験会で、参加した親子連れが講師から作法や弾き方を教わりながら、華道や三味線、尺八などを体験しました。茶道やこと、琵琶、鼓、締太鼓（しめだいこ）、日本舞踊などの体験ブースも設けられ、講師による演奏や演舞の披露もありました。

催しは子どもたちに身近に伝統文化を感じてもらおうと、市文化・スポーツ振興財団の主催。文化庁の支援を受けて開いたもので、昨年に続いて２回目。〔９月２日～３日／アピカホール〕

祖父母へ播州織のプレゼント作り

こどもプラザでは子どもたちに地場産業の播州織に触れてもらおうと、毎月第３日曜日に播州織で装飾するカレンダー作りを開いています。９月17日には18日の「敬老の日」を前に、子どもたちが祖父母へのプレゼント作りに挑戦。播州織を貼り付けた厚紙に、カレンダーと紙で作った花を飾り付け、「いつもありがとう」「元気でいてね」などと書いたメッセージカードを添えて壁掛けカレンダーを完成させました。〔みらいえ〕

旬菜館来客数150万人に

地産地消の推進などを目的に、平成23年７月にオープンした北はりま農産物直売所「北はりま旬菜館」の来客数が150万人を突破。節目の買い物客となった村上舞夏さんは「安くて品ぞろえが豊富」と話しました。〔９月14日〕

思い出語り認知症予防

認知症予防に効果があるとされる心理療法を取り入れた「回想法シアター」を関西テレビとともに開催。参加者が青春期を過ごした昭和30年～40年代の映像や写真を見ながら当時の思い出を語りました。〔９月６日／市民交流施設〕

横尾忠則コレクション展

西脇市出身の世界的美術家・横尾忠則さんの作品を展示する企画展を岡之山美術館で開催中。昨年に続くもので、所蔵する作品から職員が選んだポスター24点が展示されています。12月３日まで（休館日あり）。大人300円など。

へその夏まつりに１万人
―浴衣姿で屋台楽しむ

第２回日本のへそ西脇夏まつりに、市内外から約１万１千人が来場。約90の屋台が軒を連ね、家族連れや浴衣姿の若者が多彩なステージや飲食を楽しみました（日本のへそ西脇夏まつり実行委員会主催）。

双葉小学校や比延小学校の児童による踊りや鼓笛のステージイベントで開幕。西脇東中学校吹奏楽部が演奏を披露し、加杉野おどりやへそのミュージックフェスタでは、よさこい踊りや歌で会場を盛り上げました。

また、友好都市・北海道富良野市の稲葉武則副市長らが、祭りの開催に合わせて来西。片山象三市長とともに採火式に参加し、友好の火をともしました。

祭りの中盤から激しい雷雨に見舞われ、約２千発の打ち上げ花火などがやむなく中止となりました。〔８月26日／日本へそ公園〕

練習の成果披露―子ども芸術祭

子どもたちが日頃の練習の成果を発表する「子ども芸術祭」で、県内の児童生徒による作品の中から入賞と入選に選ばれた計397点を展示。子どもたちの豊かな感性で描かれた作品が並びました。

また、市内を中心に活動する８団体がステージでダンスや演奏、合唱を披露しました。〔８月26日～27日／総合市民センター、市民交流施設〕

「日本のへそ」で謎解き　親子が挑戦

東経135度と北緯35度の交差点を示す「大正のへそ標識」の建立から、今年で100周年を迎えることを記念し、日本のへそ西脇夏まつりに合わせて謎解きゲーム「星の秘密を解き明かせ」を企画。参加した親子連れ350人は、日本へそ公園内に設けられた５ヵ所のポイントを巡って、ゴールを目指しました。〔８月26日／日本へそ公園〕